

市長就任あいさつ

10月23日から、引き続き市政を担当することになりました。「健康で活力のある安心の杵築市」の実現に向け、全身全霊で取り組んで参ります。

様々な課題がありますが、皆さんの声を大切に、またご協力をいただきながら、一つひとつ着実に解決して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



永松 悟



観光

急激な少子化で人口減少が続く日本ですが、「世界」という視点で見ると人口は増加し続けています。なんと毎日20万人づつ増えています。

特にアジア太平洋地域の人口増と経済発展は目ざましく、日本の地理的優位性と日本文化への憧れ、そして格安料金のチケットを提供する航空会社の増加など好条件が重なり、訪日外国人数は加速度的に増加しています。

国では「成長戦略」の最大の柱として「観光」を位置づけ、インバウンド（訪日外国人旅行者）の目標を2020年までに4000万人、消費額8兆円としています。

本市は空港から近いこともあり、昨年は海外からのお客様が3万2千人を越え、前年より約1万人、45%も増加しています。中でも、着物に着替えての城下町散策が人気で、1万人の利用者のうち半数以上が外国の方です。



レンタルきもの和楽庵

課題である宿泊客の増加については、旅館・ホテルの誘致に力を入れ、より多くの国内外のお客様を本市にお迎えし参ります。

また、今年度、県の「ブランドおおいた輸出促進協議会」にも加入しました。インバウンドにも繋がるよう、杵築ブランドの産品と観光が一体となったプロモーションを海外でも実施していきたいと考えています。

さらに、先月20日に、国の文化審議会文化財分科会から文部科学大臣に対して「杵築市北台南台地区を『重要伝統的建造物群保存地区』として選定することが妥当である」旨の答申が提出されました。

現在、『重要伝統的建造物群保存地区』は国内に95市町村、115地区ありますが、答申

2期目のスタートにあたり「農林水産業」「観光」「保健医療・福祉」分野について考えを述べたいと思います。

農林水産業

本市の基幹産業である農林水産業の最大の課題点は2点あります。

まず、後継者が少ないこと。そして、自然条件や市場の動向に左右されやすく、収入が安定しないことです。

しかし、今「農村回帰」という言葉が注目されているように、農業や林業、水産業に魅力を感じるという都会の若者が増えています。

2年前に知事の立会いのもと、公益社団法人東京生薬協会と（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）そして杵築市の三者で、旧山香農業高校の圃場を活用した薬用植物栽培の連携協定を結びました。この協定を結んでいるのは全国で7か所、関西以西では本市だけです。

「安全・安心な自然環境の中で、生薬を栽培する杵築市」という「ブランド」を手に入れたわけではありません。将来的には栽培だけでなく、加工したり、薬膳料理や食育、健康教育などにも展開していく計画です。

また、市内には柑橘やイチゴ、緑茶・紅茶、花き、椎茸、ハモ、ちりめん、牡蠣、酒類等、個別に見れば県内外に名の通った素晴らしい産物があります。そこで、これらを「チーム杵築」として全国に売り出そうと、昨年度『きつきのきつき』としてブランド化し、これまでに9品目が揃いました。

昨年度の「ふるさと納税」でも、返礼品としての杵築ブランドの魅力が大きく貢献してくれ、前年度から倍増し2億円を突破しました。

今年度は、さらに認定品目を増やすとともに、地域商社を立ち上げ、首都圏や関西圏、福岡市などの大都市圏に販路を拡大していきます。

そして、これからの農林水産業は、何よりも安全で美味しいものを求める消費者の動



薬用植物の圃場

いている市内の福祉施設や医療機関にとっても、大変名譽なことでした。

「卒業生」を出すポイントは、毎週1回、2時間開かれる「地域ケア会議」にあります。会議メンバーは医師、保健師、作業療法士、理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、ケアマネージャー、介護福祉士、福祉事務所ケースワーカー等で、多職種がそれぞれの専門の立場から一人ひとりの高齢者の自立に向けて意見を述べ、協議しながら連携し、継続的にサポートしていきます。

会議を重ねる中で、他の専門職の問題点の把握の仕方や具体的なアプローチ方法が理解でき、自分の専門分野のスキルも向上します。チームとして機能するようになったことで、自立する成功事例が増え、メンバーのモチベーションも高まりました。

今年度からは、この介護保険で成果を上げた「地域ケア会議」の手法を、子育てや障がい児者、引きこもり、生活困窮者等、他の保健福祉分野に

も応用しようと、県内では初めてとなる「全世代対象の地域ケア会議」を実施し、自立に向けた支援を行っているところ。妊産期から高齢期まで、それぞれのライフステージごとに生じる様々なリスクを、多職種の専門職がチームを組んで、できるだけ早期に介入し支援するシステムを構築して参ります。

本市での先駆的取り組みは、超少子高齢社会の中でも、社会参加を促進し健康寿命を延ばし、結果として医療費や介護費、生活保護費などの社会保障費が軽減できる唯一の方法であると信念を持って取り組んで参ります。

保健・医療・福祉

どおり選定されると県内では日田市の豆田地区に次いで2か所目となります。本市の文化的価値と観光地としての知名度が格段に向上し、市民の皆さんが積み上げてきた長年の「まちづくり」の努力が、大きく実を結ぶことになりました。正式決定を心待ちにしているところです。

本市では、介護保険サービスを受けるようになった高齢者の中から、リハビリや食事・生活指導を受けて無事介護保険を卒業する人が多く、「東の和光市、西の杵築市」として、全国から大勢の行政や介護施設関係者が視察に訪れています。

3年前には参議院の厚生労働委員会に参考人として招かれ、本市の取り組みについて説明し、各会派からの質問にお答えする機会を与えられました。国会への招致は杵築市にとって、またご協力いた



地域ケア会議の様子